

第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県決勝大会

2020年11月23日

会場：豊田合成記念体育館エントリオ

■男子決勝

星城高等学校	3	24	第1セット	26	2	大同大学大同高等学校
		25	第2セット	18		
		23	第3セット	25		
		29	第4セット	27		
		15	第5セット	10		

佐々木 (3年)	伊藤 (1年)	先 発 メ ン バ ー	平野 (3年)	渡邊 (1年)
沢村 (3年)	山崎 (3年)		平松 (1年)	小境 (3年)
大前 (3年)	安達 (2年)		高須 (3年)	国立 (3年)
薬真寺 (2年)	金黒 (3年)	リベロ	池崎 (2年)	金谷 (3年)

<戦評>

第1シードの星城高等学校(以下星城)が、第69回大会以後遠ざかっていた代表の座を4年ぶりに勝ち取った。第3シードの大同大学大同高等学校(以下大同)も、あと1点で勝利という状況まで星城を苦しめ、愛知県の頂点を争うにふさわしい見応えのある一戦となった。

第1セットは両チームともやや固さが見られる立ち上がりとなった。大同は平野の連続ブロックを含む6連続得点で12-8とリードしたが、終盤星城に逆転を許し先にセットポイントを奪われた。しかし、国立が速攻をしぶとく決めてデュースに追いつくと、レフト高須の強打で逆にセットポイントを奪い返した。最後は国立のブロックポイントで大同がセットを先取した。

第2セットは、星城が一度も相手に追いつかれることなくセットを奪い返した。セットの前半は山崎がアタック、ブロック、サーブでチームの得点源となり、中盤は佐々木、後半は安達がアタックで活躍した。チームとしても20-17からの4連続得点などで、大同につける隙を与えなかった。

第3セットは、大同の小境が大活躍。要所で時間差攻撃を決めてチームに貢献した。粘る星城は、途中交代で入った間瀬のサービスエースなどで5連続得点を奪い21-21に追いつくも、23-23からの連続ミスでセットを失った。

第4セット、星城はスタートから投入した間瀬が攻撃面で活躍を見せ、このセット両チーム最多の6得点を挙げた。しかし、星城は9-7から4連続失点を喫した場面でセッターを田中に交代、背水の陣での戦いとなった。終盤22-24と絶体絶命のピンチを迎えた星城だったが、相手のサーブミスの後、佐々木が難しいトスをレフトから打ちきってブロックアウトを奪うとデュースに追いついた。このプレーがチームに勇気を与え、星城の攻撃陣が終盤になって躍動を見せた。最後は27-27から山崎の速攻、セッター田中のサービスエースという連続得点で決着した。星城の選手層の厚さがよく分かるセットとなった。

第5セットは4-4から星城が6連続得点を奪うなど、前セットの流れのまま押し切った。特に安達が軟硬織り交ぜた攻撃で4得点、山崎がブロックで2得点と、チーム勝利の軸となった。

■作成者： 富田 崇

第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県決勝大会

2020年11月23日

会場: 豊田合成記念体育館エントリオ

■女子決勝

愛知江南学園誠信高等学校	3	25	第1セット	17	2	豊川閣妙厳寺豊川学園豊川高等学校
		24	第2セット	26		
		25	第3セット	10		
		15	第4セット	25		
		15	第5セット	9		

平家 (3年)	三留 (3年)	先発メンバー	早川 (3年)	奥村 (1年)
岩島 (3年)	見並 (3年)		松田 (1年)	水野 (3年)
弓削 (3年)	杉浦 (3年)		吉武 (3年)	我那覇 (2年)
檀上 (3年)	西辻 (2年)	リベロ	西川 (3年)	植村 (3年)

<戦評>

第1シードの愛知江南学園誠信高等学校(以下誠信)が、初の決勝の舞台となった豊川閣妙厳寺豊川学園豊川高等学校(以下豊川)を破り、2年ぶり2回目の頂点に立った。準決勝まで得点源として活躍を見せていた真子が数日前に脚を負傷してしまい、ベンチに入るのがやっとという状態の中、チーム一丸となって戦い死闘を制した。敗れた豊川も、第2セット以後スタメンに3名の1年生を配置しながら、今大会失セット0の誠信に対して堂々のバレーを展開した。

第1セットは、誠信がレフトサイドを中心として各アタッカーが確実に得点に結び付け、3点以上の連続得点を三度奪い先取した。誠信はミスによる失点が1本もない安定感の高いプレーで、盤石のバレーを繰り広げた。

第2セットは、3連続得点を互いに二度ずつ奪い、終盤まで競り合いが続いた。先に相手にセットポイントを許した豊川だったが、水野の中央からのプッシュでデュースに追いつくと、次のラリーでも水野がバックセミをクロスへ打ち切り、最後は吉武のサービスエースでセットを取り返した。

第3セットは、誠信が開始早々7連続得点でスタートダッシュを決めると、その後も5連続得点、二度の3連続得点など、第1セット以上に相手を圧倒した。特にミドルブロッカー見並が変幻自在の活躍を見せ、アタックで6点、ブロックで1点を挙げた。センター線を強みとする、セッター平家の巧みなトワークが誠信の支えとなった。

第4セットは終盤に流れを取り返した豊川が、逆に誠信を圧倒した。特に中盤、阿部がレフトから要所で攻撃を決めてチームの軸として活躍を見せた。豊川は14-14と追いつかれた後からエンジン全開、水野・早川の強打や、リリーフサーバー堀部のサービスエースなどで、25点まで走り抜けた。その間に相手に1点しか許さない、怒濤のラストスパートを見せた。

勝負の第5セットは、誠信が弓削のレフトからの強打で中盤のリズムを作ると、9-9から一気に6点を奪って試合を決めた。うち2点は弓削のサービスエースで、弓削はこのセット両チーム最多の7得点を挙げて誠信の勝利に大きく貢献した。

■作成者: 富田 崇